

# 母校の思い出



昭和初期の母校



昭和23年に新築された本校舎

## 明治

### 水車校舎の思い出

私が海蔵小学校へ入学したのは明治31年4月です。当時の学校は旧東海道の西側にありました。今ある小林商店からカベ佐付近がその場所でせまい校地でした。

学校の前には三滝川より取り入れた水が用水路を走り、東海道の植えられた形のよい老松が水に影を落していました。

先をとがらせた杭のような校門。土を積みあげた土手にかこまれた校地の中に、中央2階建の校舎1棟と東西に2棟の教室が平行して建てられていました。

職員室はガラスがはまっていましたが教室は障子ばりで雨の日の勉強は暗くて困りました。中央2階建の部屋は太鼓の部屋とよんでいました。この部屋には大太鼓がおかれており始業はこの太鼓を打ちならす音が合図でした。

勉強の科目は読本、算術、習字、唱歌などで石板と石筆がノートがわりでした。先生が赤の石筆で丸をうってくださるのがとても楽しみで一生懸命に勉強しました。

運動場の中ほどには大きな柳の木があり、その下や教室の間でせまい所で男はすもう、なわとび、走りっこ、女はまりなげあやとり等をしてよく遊びました。

勉強の合図の太鼓がなると運動場へ2列にならび、先生が先頭で足なみをそろえて教室へ入りました。

私が入学したその年の春、5月頃だと思いますが今の東阿倉川の位置へ建てられた校舎へ末広橋を渡って移転しました。当時の末広橋は通行人も少ないので板橋でしたが、子どもの通学のため、その年新しく架設され学校橋とか子ども橋とかの愛称で呼ばれていました。移転の日は村長さんが先頭で、校長先生、村の駐在さん、1年生、村民と続き、みんなは日の丸の小旗をふって新設の末広橋を渡り、菜種のさく中を移転しました。

(明治35年度卒 石崎 喜之助)

## 大正

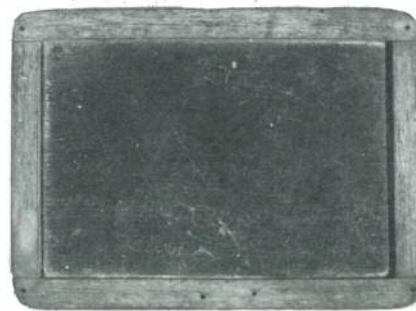
### 四本松

時は大正4年、御大典記念、国民挙って大盛況の時期。当海蔵学校においても植樹記念でもしたらどうかという話が持ち上がりました。当時、西阿倉川字北山の高台にもボツボツ宅地が開墾されていました。その一角に、いま言う「五本松」の自生地があり、それに目を付け、あの松を学校の校庭に、御大典記念として植樹したらどうかということがまとまりました。

その地主にも了解を得て、植木の技術者にも協力していただき掘りおこすことになりました。

しかし、何分にも幾株かくつついているので大株になり、最初の計画では、大八車に乗せて学校の生徒に盛大にひかせる予定でしたが、とても大八車に乗らぬのでやむをえず、村の若者を多数臨時召集しました。そして、長い丸太2本を株にしばりつけ、それにロープを巻きつけ、巻き吊り方法で「ワッショイワッショイ」と、やっと学校の運動場に着き、無事、記念植樹を終わりました。

その当時の株の元についていた小さい松は、大株におさされたただいまでは2本になりましたが、大木となり、元気よく繁っていて、運動会等ではその木かけを利用してよい憩いの場所となっています。(明治30年度卒 中山 俊雄)



明治の初めより使用された石板

## 大正初め頃の学校

末永から阿倉川に通ずる巾2 m位の道が唯一の通学路で路面は砂利。学校は道の西側にあって今日と変わりはないが敷地は約二分の一で周囲は田ばかりで静かな学園でした。道の東側には南寄りに日露戦役記念碑が建っていた。大山元師の書で明治40年8月建立されたものであるが現在は東阿倉川神社の境内に移設されてある。

校地の東南には奉安殿。その西にガラス窓の校舎2棟。西端に便所、正面西側には職員室、購買部室、教材置場室、小使室宿直室、教室2つからなる校舎1棟、北側には障子窓の校舎1棟、西端に便所がありすべて廊下で連絡していた。

校庭中央東寄りの校門は石柱でその両側に松があり、道に沿って木の柵があり、東北には掘抜井戸があって湧水は飲水や習字、図画の時使用したり、時には足洗場となった。

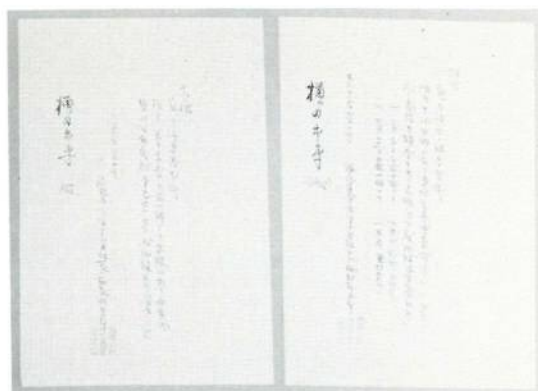
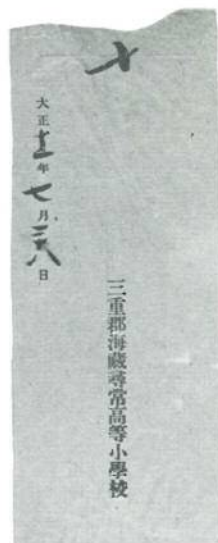
その北側に用無川があった。この川の堤は高く、川底は田の面より高く平素は水が流れていなかった。(大正13年阿倉川耕地整理事業のとき取りこわされた。) この川が校地の境となっていた。

井戸の西側に2連のブランコあり、校庭の中央に柳の大木があった。その東側に肋木、鉄棒があり、柳の南側に記念植樹(松の木、当時5本、現在2本)や回転遊動木があった。

用無川の堤と北校舎の間は東西に細長く、高等科生徒の実習畑として利用されていた。

校舎は道に対し門の字形に建っていたが窓の一部が障子張なので、たまたま、四日市の小学生が遠足で垂坂山に行くとき、「破れ障子の貧乏学校」と悪口をいわれて腹の立ったこともあった。

(大正4年度卒 森 嘉門)



大正12年、学芸会・卒業式の案内状

## 運動会・遠足・旅行

いつの時代でも子どもの楽しい行事として一番にあげられる運動会。朝早くから目を覚まし、特にかけ廻ることの好きだった私には何より楽しい一日だった。

徒歩競走、騎馬戦、障害物競走などは今とほとんど同じだが中でも記憶に残る競走の一つとして網に編まれた縄をくぐり抜ける競走。なかなか思うように網がくぐれず足を取られ、腕をひっかけて見物の父兄を楽しませたものだ。お弁当も、お鮓あり、サンドイッチありの時代ではなく、梅干入りの握り飯に決まっていた。

次にあの頃の遠足。6年生の時、高等生と一緒に草鞋ばきで湯の山を往復したものだ。いまの子どもは、そこまでも乗物に乗って出かけ、それでも工合が悪くなって先生の手をわずらわせることがあるが、いつもの通学服に足袋、草鞋ばきでの湯の山行きは苦しくてもつらくても誰一人落伍する者もなく、全員歩け歩けて遠足ということはそのままでの行事であった。

同じ学校を離れて出かけるのでも修学旅行は別だ。私達の場合は卒業年が大正5年、丁度大正天皇の御即位式が4年の秋に行われたため京都御所の見学という1年に2度も修学旅行に行けるというその頃にとっては誠にありがたい学年であったといえよう。

(大正5年度卒 館 佐市)

## 子どもの遊び

大正11年尋常科卒業生61名。(男子33名, 女子28名) 進学4名。(男子3名, 女子1名) 高等科34名(男子16名, 女子18名) 学習教科は読本, 算術, 修身, 地理, 歴史, 理科, 書き方, 唱歌, 体操, 図画, 手工, 裁縫(女子)でした。

高等科は男子1年, 2年合同で農家の者は運動場の東北に実習用畑, 校門の東に水田があり, 農作業の実習。非農家の者は図画。女子は裁縫でした。

遊びの主なものは, ゴムマリを拳で打つベースボール, 木製ラケットを使ってするテニス, コマ廻し, タコ揚げ, すもう, 三ツ馬(3人1組) 四ツ馬(4人1組), なわとび, 丸型カードを使った庄屋, 小型カードのメンチ, 将棋, 五目ならべ, 冬の竹馬, 夏の水泳。

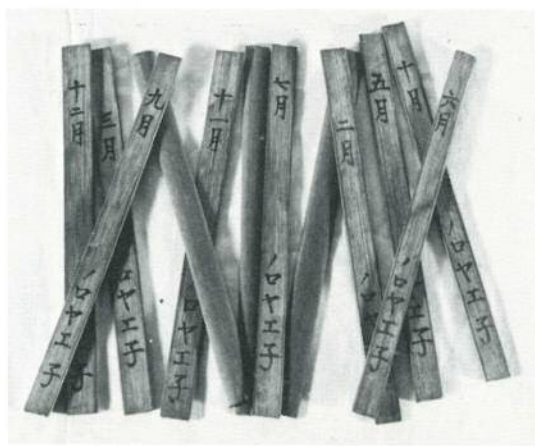
女子は, テニス, ゴムマリ遊び, お手玉, なわとび, 小型ガラス製のハジキ, あや取り等で楽しく遊びました。

服装は, 男子は木綿カスリの筒袖の着物で木綿の袴を着用し学生帽をかぶり, 袴のひもに手ふきに名前を書いて付けました。

女子は海老茶色の袴を着用しました。

履物はわら草履または麻裏草履。雨天は下駄。大正10年頃より生ゴム製の靴ができたが容易に買ってもらえませんでした。

(大正11年度卒 池田 満穂)



女の子が室内遊びに使った十二タケ

## 昭和



## 思い出の母校

今から54年前の母校は全校生徒 320名程。校庭は今の六分の一ぐらい。現在に残っている当時の思い出は松の木, 石門だけです。その頃の校舎は平屋建。職員室, 小使室等全部で6棟でした。北側には大きな川があり, 職員室の前には大きな築山があって, 今の海蔵出張所は, 海蔵川の南にあり, 当時, 海蔵村役場と呼ばれていたのです。

通学様態は2列に並び, 高等2年生が引率して各部落ごとに登校したのです。

校門を入るとすぐ奉安殿があり, その前で敬礼をした後教室に入るのです。

通学の服装は着物で高等生になると男女共袴をはき肩からかけるカバンで, 一人も洋服姿のなかったのを記憶しております。男の先生だけが洋服で, 女の先生は着物に赤か紫の袴でした。

先生や役場の人にあうと目礼をして通ります。

昭和になってから今の体育館の所まで広くなりました。その時, 一番古い校舎がなくなり, 新校舎が竣工し高等生が入りました。昭和3年のことです。

(昭和4年度卒 中山 信一)

## 母校の思い出

海蔵小学校百年祭にあたり過ぎし日のことを思い出すままに書かせていただきます。

校庭の東南に生垣でかこまれた奉安殿。登下校の際は必ず敬礼すること。三大節には全校生徒がお迎えする前を校長先生がうやうやしくお通りになり身のひきしまる思いが致しました。式場は教室を開放して作るので机、椅子を片付けるのがとても大変でした。

誠実、規律、勤勉の額のかけた教室。黒板の上には年代表がはってありました。

玄関前の大きな築山、枝振りのよい松、手入れされたきれいな築山でした。南校舎の教室からは鈴鹿連峯が彼方に見え教室から時々写生しました。下が大きな溝だったので窓ガラスをふく時落ちないようにこわごわしていた記憶があります。

北校舎の外は小高い山か、堤防があり、秋の七草がたくさんあるので名月には花をとりに行ったものでした。それもいつの間にかトロッコで土を運び耕地整理をされて水路も通学路も直線になり便利になって昔の面影はありません。道の両側には麦、菜種、レンゲ草がきれいに咲いたり、川の魚をながめ本当に楽しい田園風景でした。

万年1年生受持のM先生の教室の掃除。光る程ふかなければ先生の検査がパスしないので皆が競争して雑布がけしたことも印象的です。

悲しい思い出は大正天皇の御大葬のこと、如月の夜、真暗な校庭で行なわれました。

「地にひれふして 天上に祈りし誠入れられず 日出づる国の国民はあやめもわかぬ やみ路行く」の歌を

「如月の空春浅み 寒風いとど 身にはしむ」の歌の通り何年生の時だったか記憶していませんが、悲しい思い出として子ども心にしみています。

時はうつり、私の父、私の子ども、孫と親子4代お世話になった海蔵小学校のこと、次から次へと思い出すまま取りとめのないことを書いてしまいました。

(昭和3年度卒 岡本 清子)

## 遊 び

菜の花畑、麦畑、レンゲ畑に苗田がまじって、そして、すべてが水田にかわり、やがて稲穂の波々。こうした中に学校があり、広くもない道をノンビリと通いました。

着物に帯、前掛けをして、おさげ髪で下駄やタイヤ裏の草履をはいていました。

私は関東大震災の年に1年生で、国語は「ハナハトマメ」で書き方は「ノメクタ、ニエコヨ」が一番はじめてでした。

校門を入れて奉安殿に向って敬礼。出るときも同じでした。

正面に築山、その後にかっこよい建物があって、職員室、応接室、小使室、購買部等があり、その手前が渡り廊下で教室に続いていました。

小使室の前あたりにきれいな湧水があり手洗い、足洗い場がありました。渡り廊下のミザラをカタコト足音をたてて学用品を買ったり、ヤカンを持って足を洗ってよく通りました。

お昼は楽しいもので弁当箱のふたをあける時は格別で、冬には保温器があって、3時間目になるとおいしいにおいがしてお腹の虫がなきました。

私達の時代は講堂はありませんでしたが続いた教室の板戸を取りはずすと式場になり、年の初、紀元節、天長節、卒業式に集まりました。

5年生になってえび茶色の袴をはきました。初めての旅行は大阪神戸へ2泊で5年生以上みんなで行き、高等科のお姉様にまじって楽しい旅でした。

6年生のときは三重郡の学校がそろって御大典のすんだばかりの京都御所見学で忙しく走りまわった1泊旅行でした。

「ヨクマナベヨクアソベ」「よくまなべよくあそべ」「よく学べよく遊べ」教室で毎日ながめた文字でした。

お天気のよい日は校庭で、ロクボク、ケンケンパー、石けり陣とり、縄とび、ドッジボール、ベースボールで遊びました。グービーパーは手でも足でもやりました。雨の日は教室や廊下で手ぬぐいとり、マリツキ、おんじょこ(お手玉)十二月、ビ一玉、オハジキ等でよく遊びました。

(昭和4年度卒 森 末乃)

## 四大節と奉安殿

校門をはいって左手、校庭の南の方に小ちんまりと建てられた奉安殿。当時私たちは朝に夕に校門に出入りする毎にその方に向かって気をつけの姿勢をとり、最敬礼をしました。数年前久し振りにこの校門をくぐった時、否応なく身体が奉安殿に向かい拝礼しそうになってハッとさせられました。

この奉安殿には三重の扉があり、その奥深く天皇、皇后両陛下の御真影、教育勅語、戊申詔書など安置されていました。そして新年の拝賀式、紀元節、天長節、明治節には、この御真影と教育勅語が校長先生方の手により式場へ運ばれるのです。当時講堂がまだなかったので、式の前日普通教室の間仕切りを取り外して式場を作りました。机の移動、大掃除など大変だったように覚えています。それから式の練習です。気をつけ、礼の仕方、君が代、式歌、勅語奉答歌など何度も練習させられました。特に校長先生が勅語を読まれる間下を向いているので皆がよく鼻をすすり注意されました。長時間の練習は緊張の連続で本当に辛いものでした。

いよいよ式の当日です。村長さんや学務課長さんなど多数列席されました。校長先生はフロックコートに白手袋。女の先生は紋付きに紺袴。児童も紋付きに袴をはいたり衣服を改めたりして出席しました。

御真影が式場正面に、その前に桐の箱に納められた教育勅語が置かれます。しかし御真影には紫の幕がかかっています。式が始まると校長先生の手で先ずこの幕が上げられ、両陛下のお姿が現われます。式次第が進み最後の式歌を歌い終わるとこの幕は閉じられて式は終わるのです。このあと担任の先生からパンを一個ずつ頂きました。松を型どった乾パン様のものですが、緊張から解放された嬉しさと共に楽しみの一つでした。

(昭和7年度卒 昭和45年より母校勤務 森 ふじ)

## 新校舎の思い出

昭和12年の2学期に当時県下一といわれた「形の新校舎に引越しました。

各教室、特別教室は、いずれも最新の施設が完備されていました。理科室の暗幕設備、数多くの実験器具、図画室の傾斜した描画机、粘土室の楽焼窯、音楽室の五線机、手工室の工作机や大工道具、家事室の実習設備、衛生室の歯科治療機器、図書室、裁縫室、映写設備のある講堂、ダスターシュート等勉強がととても楽しみでした。

スポーツもまた盛んで運動場にはバレーコート、バスケットコート、すもう場、藤棚があり運動用具も数多く備えられ、校長室には優勝旗が林立していました。

昭和15年頃より戦時色が強くなり、遊びの時間などは裸足だったため、地下水を利用して作った足洗場で足を洗ってから教室へ入ったものです。体育は柔道、剣道の基本動作を毎日やりました。大寒に入ると5時半から寒げいこがありました。それがすむと実習田でとれた米で楽しい朝食をたべたものです。また、朝早くから出征兵士を送りに出かけましたし、その家へは勤労奉仕にいったりしましたが、武運長久を祈願するため各町で日参団を組織して神社へ参拝したことは強く心に残っています。

県下一をほこった校舎も昭和20年の戦災で焼失しましたが、真黄な菜の花の中に、また、田植えのすんだ緑の中に、黄金の稲穂の中に、くっきりとうかんだ校舎の姿を忘れることができません。

冬、きりにかすんだ海蔵川に浮かぶ水鳥をおどし、夏、川底で乱舞するアユを見ながら、秋、農家の垣根ごしに柿、みかん、いちごの実のなるのを見て通学した昔の面影は今は何も残っていません。

(昭和14年度卒 稲垣 豊)

## 新校舎，兎狩り，雪合戦

私が昭和10年4月に1年生として入学した時は平屋建の古い校舎であり，戦災で焼失しましたが，その新校舎の建つ前でした。しかし，講堂は立派なもので，その後もこれを使用していました。入学式当日は，この講堂で入学式をして，その後校庭に出て玄関前で記念の写真を写してもらったもので当時のようすは今でもよく覚えています。

毎年冬になると地元の青年団と共に垂坂山付近一帯で兎狩りをしたものです。その頃垂坂山付近は荒地，桑畑，茶畑等で人家は全然なかったのです。適当な日を定めて全校生徒が手に竹を持って一列となって，海岸の地びき網の要領で大きな輪をだんだん小さくして最後に兎をつかまえるという方法で終日同山一帯で行なったものでした。一日で5，6匹から8匹程の兎をとり，狐もつかまえました。翌日は校長の手料理による兎汁を全員が昼食時にいただいたものでした。現在，あの付近には人家が立ちならび昔日の面影はどこへやらといった感じです。

また，その頃のもう一つの思い出に，雪がよく降り40～50cmの積雪をみました。積雪のあった翌朝は登校した生徒が雪をくずさないようにして一条につけられた道を通して校舎に入り，授業に先だって全校生徒が紅白に分かれて運動場を一ぱい使い壮絶な雪合戦を展開したものでした。

(昭和16年度卒 今村 渉)



玄関前での入学記念写真

うさぎ狩り



## 「何ごとも日本一」の橋本校長と 名声高き海蔵小の吹奏楽隊

学校のまわりは，一面の菜の花におおわれのどかな田園風景であった。校門をくぐると左に藤棚や鉄棒があり，その後方に御真影をまつる奉安殿があった。真新しい二階建ての校舎がカギ形に建てられ，理科室や音楽室などの特別教室も完備され，当時としては，県下でも稀に見る立派な学校であった。また，講堂の北には掘抜井戸があり，いつも冷たいきれいな水が流れていた。

私たちが入学したのは昭和12年4月，新校舎落成後の最初の入学生であった。しかし，この校舎が8年後，アメリカ軍の空襲によりその姿を消す運命にあらうとは，誰ひとり予測する者はなかったであろう……。

さて，私たちが入学当時の校長は，ヒゲをたくわえ，見るからに厳格そのものの橋本源之助校長であった。校長先生は「何ごとも日本一になれ」が口ぐせで，この言葉は氏の信条でもあった。

その影響か当時の海蔵小は，「書き方」や「ソロバン」「図画」などが盛んで，県下の各学校から視察にみえたことを覚えている。書き方やソロバンは，学年の枠を外し，全校生徒が同じ文字を書写し，または同じ計算問題に取り組み技を競い，上達すれば進級するというシステムであった。

次に，当時のクラブ活動は，野球，すもう，バレー，テニスなどが活発で，校長室はいつも優勝旗や盾で一杯であった。とくにすもうは校庭の片隅に土俵がつくられ，連日，先生や豆力士が力強い四肢を踏んでいた。

もう一つ忘れられないものに“楽隊”がある。大小いくつかの楽器で編成された吹奏楽隊は，勇壮そのもので，リーダー真弓先生の名指揮ぶりは，今もなお私の脳裏によみがえってくる。

(昭和18年度卒 館 和次)

## 空襲

モーニング、紋付、はかま、証券等の貴重品を入れた柳行李を自転車に荷造った。家を出るとき、すでに裏で焼夷弾が火を吹いていた。川原町通りを抜け、末永の墓地を通過して自転車に乗ったり、押したり、伏せたりしながら末広橋までに30分位は要したと思う。

学校にたどり着いたが自転車と柳行李の置場に困り奉安殿西のすすきの中にかくした。職員室と宿直室も人影はなかった。何をしてよいかも頭にうかばなかった。後でわかったが川村先生（教頭）と宿直の近藤先生の二人は御真影を奉持して海蔵神社へ行ったあとだった。「非常持出」「永久保存」の学籍簿は外に運び出されたが焼かないために壕の水たまりの中へ投げこまれ永久保存は全くの空文となった。校長印、校印などの印箱はどうして持っていったかわからないが川村先生が確保していた。その頃、20才の若い山下千鶴先生がかけつけてきた。「危険だから逃げよう」「同じ死ぬなら校地内で死のう」等と話し、宿直室のふとんを持ち出し、正門左の藤棚の下で頭からかぶって伏せていた。

ゴー、ドドドン「それきた!!」ふとんをかぶった頭を上げると、パッと花が咲いたように屋根といわず運動場といわず1平方メートル当り1個位の割合で炎をあげて燃えていた。一面火の海となったが1、2分で消えた。屋根の上の監視台は木製だったのですぐ燃え出した。かぶっていたふとんの裾も燃えていた。衛生室前のごみ箱が燃え上がり校舎に燃え移ろうとしていたので思わず火の上をとびこえけとばすと横転してパッと消えた。消せるぞと思って校舎にとびこんだ背後から「危ないぞ」と川村先生に呼びとめられ引き返すと、中央昇降口、理科準備室に火の手が上がっていた。こうして僅か20分位で体操物置一棟を残して全焼した。

工作室には鉋、鋸、金槌、職員室にスコップ等たくさんあったがこれが貴重な道具であることに気づいたのは数日後だった。柳行李の中にはすぐ生活に役立つものは一つもなかった。父兄から一丁の金槌をもらった嬉しさは今も忘れられない。

(昭和3年より23年まで勤務 藤谷 茂)

## チョーク1本から

焼け残った校舎の土台を柱に、回収された鉄屑の山が築かれ、飛び廻ってはねた運動場は一面芋畑。

栄養不足ながら、かろうじてうね間をうずめるくらいにその葉は広がり、勝たんがためにみんなで作られたようすがわかるようであった。

あちらに3人、こちらに5人、なにして遊ぶというのでもなく、手あたり次第にそこらにあるものを拾っては投げつけている。どす黒く日やけした顔、目だけぎょろっとしている。

終戦の月の終り頃、内地にいたため早めに帰れた私のもとに、当時の荻野校長から1日も早く来てほしいとの要請を受け、2学期の始まる日、母校へ出勤した朝の風景の記憶である。

型どおり先輩に挨拶を済ませると、「君は高等科1年の男子だ、分教場は末永の神明神社だ、頼む」といわれた。

校門と両側の松などはそのままだなあと思いながら神明神社に着くと、27名といわれた子どもが17名しかいない。「〇〇で働いとった」「遊んどった」「もうおらへんに」という具合で正体不明。何もかも疲れ切った表情、どこに取り着かせるか、その島を見つけなければならない。

話題といえば、闇市、食う話、先生は兵隊で何をしていたのかと。拝殿の板間に座らせながら書くものを探すと、戸板の半分くらいの黒板と、使いさしのチョークが1本。おいらの仕事はチョーク1本からか……。

素手とはいかない、書かせなければと、学生時の使い残しのノートを物置から引き取り出し、どうにか17名に何かを書かせることから始めよう。弁当を食べに帰えらせると、またその人数は半分になるけれども……。

分教場の昼さがり、板の間だけがひんやりとしていた。  
(昭和12年度卒、昭和19年より25年まで母校勤務 館 増男)

## 講堂倒壊

昭和34年9月、台風接近により、職員は窓ガラスを釘づけし、昇降口の扉にみざらを打ちつけて一応校舎の補強をしました。その夜、26日は、当地方を襲ったのが伊勢湾台風だったのです。

夜明けを待って、子どもは学校へ走りましたが驚きました。校舎の東と南の西端の教室は、窓ガラスはわれ、瓦はとび、天井の板は落ち、壁はくずれ、何とも言えぬさまでしたが校舎の西側の講堂をみて仰天しました。なにか巨大な力で押し潰されたように倒壊しているではありませんか。

宿直は青木龍生、森翁の両先生でした。ふたりとも危険を感じ警戒はしていたものの、瞬間風速50メートルには何のすべもなく、映画のスローモーションそのままを実現するように倒れたと話してみえました。

倒れた講堂は、旧海燃の廃材で建てられたトタン葺きで、ここでは学習をしたこともありました。教室は瓦葺き木造校舎に改築されましたが、10余年たっても講堂だけはそのまま、学芸会や卒業式のたびに、土間を掃き、うち水で砂ぼこりをおさえ、むしろを敷いたり、いすを運び入れたりして、全校生が集まったものでした。市内の学校は鉄筋校舎に建てかえられようとしているのに、ここだけは戦災のなごりをいつまでもとどめておりました。それが台風により一瞬にしてくずれてしまったのです。

台風の後始末に働いてくれた6年生は、卒業式を行なう場所がなくて、せまい教室にいっぱいになりながら、証書授与をしたのが印象に残っています。

(昭和15年度卒 昭和23年より36年まで母校勤務  
川北 益栄)



## 体育館建設の苦心

幸か不幸か、伊勢湾台風のために海蔵小学校のお粗末な講堂がつぶれてしまいました。市は災害復興事業として講堂を建ててやるといってくれました。

当時の校長は生川専吉さんでした。建設委員長は山本貞三氏になっていただき、その他、各町の有力者を委員に推せんし、相談の結果、講堂ではなく体育館をつくってもらうことに決まりました。このことを市の教育長にお願いしましたが、小学校に体育館はいらぬとことわられました。そこで、市へは表面から何度も山本委員長、中島貞男PTA会長、生川校長や私がお願ひに上がりました。

ある日、当時の総務部長、岩野見齊さん(現市長)に相当強く申し上げたところ、「私は海蔵に対し何か反対したことがあるか」ということばをいただき、「ハッ」とし、これはしめたと思ひ、おとなしくお礼を申し、ひき上げてきました。

その後、海蔵としては、この際できる限り広いものを建設してもらいたいのので陳情を繰り返しました。その結果、予想外に大きい体育館ができました。そこで、内部施設充実費を地区の方々をお願いすることになり、それから1か月間、山本委員長をはじめ委員の活動が続きました。おかげで、腰掛、放送、暗幕装置等を作り上げました時は何ともいえぬうれしい感じがしました。

この時代からPTAが発達してきて、落成式にはPTA会長中島さんの笑顔を見せていただきました。(児島 清夫)

体育館建設委員長	山本 貞三	委員	母子福祉会
副委員長	石崎茂一郎		
"	中島 基喜	顧問	山本 三郎
委員	自治会長	"	日比 義平
"	PTA 常任委員	"	伊藤 泰一
"	民生委員	"	小林 啓介
"	婦人会	"	生川 専吉